

# Playing Body

遊動躰

Hayashi Aoi

林 葵衣

2020年3月13日[金]\_3月29日[日] 11:00 — 19:00

月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで開廊

「躰の延長」— 林葵衣 × 今村達紀によるパフォーマンス—

3月15日[日] 17:00—

中止となったパフォーマンス「躰の延長」は、22日[日]に林葵衣・今村達紀による非公開によるパフォーマンスとして会場で実施し、24日[火]より作品・記録映像として展示しております。

Gallery P A R C  
GRAND MARBLE

2013年に京都造形芸術大学修士課程を修了した林葵衣（はやし・あおい / 1988年・京都府生まれ）は、「文字・言葉」への興味を始点として、現在は「記録すること」「うつす（うつる）こと」への興味、「そこに起こる身体や行為」を取り上げて作品としています。

本展は2008年から2020年までの林の作品に、新作を加えた展示となります。

玄関部分にある作品《雑踏の音楽》は2008年に制作したもので、日常生活の中のある行動にともなう一連の音を「その日の自分自身の身体や行為の記録」と捉えたものです。2階に上がって最初に目につく作品《Lip sync》は、本展にあわせて制作された新作となります。他者の言葉をセリフに起こし、それを自身が発話する本作は、そこに生じる唇の動きを模倣することで、話すという行為、他者の言葉に込められた意味や感情、思考をうつすことができるのではないかと、との着眼で制作されたもので、ここでは林と林の母親が「子供（林）が生まれた時のこと」について話した内容を、話者を交換してなぞっています。また、アルファベットスタンプを用いた作品群は、黒地に白色、白地には黒色のスタンプで「R」「E」の文字が無数に複製・反復されるもので、画面には身体が起こす反復のズレによる秩序と混沌が縋い交ぜとなったイメージが現れています。本シリーズ作品では、「RE（繰り返し）」が繰り返されることで「文字・言葉」としての意味が強調されながら、同時に解体・消失しているといえ、その間に新たなイメージが再構築されています。3階の作品《エスケープ》は、キャンバスにシアン・マゼンタ・イエロー・胡粉を塗り重ね、それをアクリルリムーバーという溶剤をつけた綿棒で溶かし取った作品です。色材が削ぎ取られた痕跡（穴）には、積層された色の断片が垣間見えるとともに、その部分にあった物質（色材）は綿棒に移動し、集積されてることでそこに異なる様相を見せています。4階には4つの作品が展開しています。発音の際の口の動きを板ガラスにルーターで削り描いた作品《水の発音》や《tongue score》は、たとえば「ウォーター」や「タン」と発話する際の口の動きを記録したものです。A～Zまでのアルファベットをシルクスクリーンで刷ったスライドガラスを、宮沢賢治の『よだかの星』の英訳の一節にしたがって並べた《よだかの星》や、文字が書かれたオセロは、どちらも鑑賞者が自由に並べ替えができるものです。これらは当初の法則やルールが、鑑賞者が何に焦点をあてるかで変化していくものです。本展タイトル《Playing body》と同じタイトルを持つ黒いキャンバスの新作は、金属の粉を指につけて黒い画面をただ触ったもので、画面に残るのは林の手の移動の跡であり、林の身体が一時期この画面の前にあった記録であり、気配でもあるといえます。

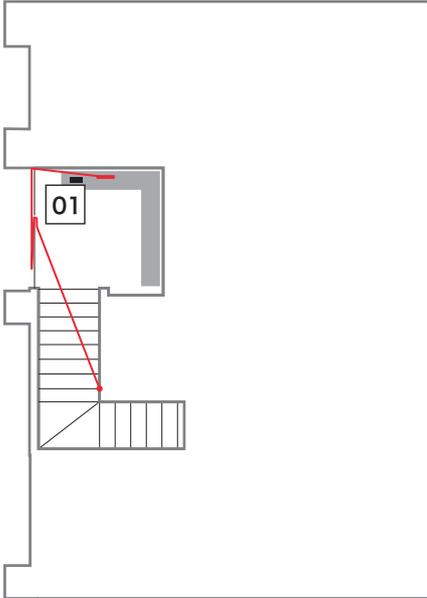
本展において林が現在までの12年間に制作した作品を概観した時、そこには「文字・言葉」への興味をきっかけに、それを様々な側面でデコードし、取り出してみることで作品に展開させている様子を見ることができます。林は、文字や言葉は意味やイメージに、あるいは声・物質・身体・行為・記録、音やカタチにまで分断・還元することで作品化し、また、それによって鑑賞者に自身の知覚や経験をもってそれらを再構築する体験を促しているといえます。

同時に、これらの作品は制作された時の林の身体・行為の記録でもあるといえ、本展は林の過去作品をその時々々の身体・思考の記録として捉え、「現在」までの一連を「譜面のようなもの」として、今一度読み直してみる機会としても設定されています。鑑賞者はまた、過去の作品を一旦は意味や文脈からズラし、現在から眼差すことで、また新たな視点や気づきを取り出すことができるかもしれません。

なお、会期中の3月15日に予定しておりました林葵衣 × 今村達紀によるパフォーマンス・イベント「躰の延長」は、諸般の事情により中止することになりましたが、22日[日]に非公開によるパフォーマンスとして会場で実施し、24日[火]より展示作品・映像として会場でご鑑賞いただけます。

ギャラリー・パルクでは本展を含め、以後に実施する展覧会については、その開催期間中にwebサイトに会場風景写真や配布物、アーティストへのインタビューなどの資料、動画コンテンツなどを随時公開しております。こちらについては記録・アーカイブの側面はもとより、皆様にご来場いただくことがかなわなかった場合でも、別の視点で展示・作品をお楽しみいただくことを主眼に取り組んでまいります。

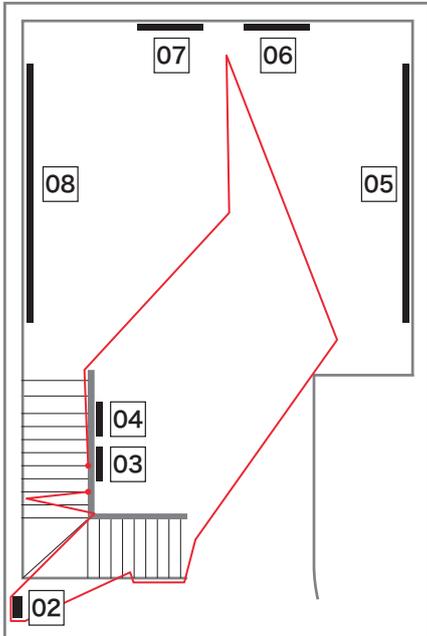
1F



01《 雑踏の音楽 》

2008  
カセットテープ、カセット  
音声 3:42

2F



02《 Lip Synch 》

2020  
映像 26:13

03《 くずれる 白 -edition 2- 》

2013  
キャンバス、シャチハタスタンプインク、アクリル  
ガッシュ、サンビーエンドレススタンプ  
80×40cm

04《 くずれる 黒 -edition 2- 》

2013  
キャンバス、シャチハタスタンプインク、アクリル  
ガッシュ、サンビーエンドレススタンプ  
80×40cm

05《 かさねる 》

2011  
キャンバス、シャチハタスタンプインク、アクリル  
ガッシュ、サンビーエンドレススタンプ  
200×300cm

06《 くずれる 黒 -edition 3- 》

2015  
キャンバス、シャチハタスタンプインク、アクリル  
ガッシュ、サンビーエンドレススタンプ  
100×100cm

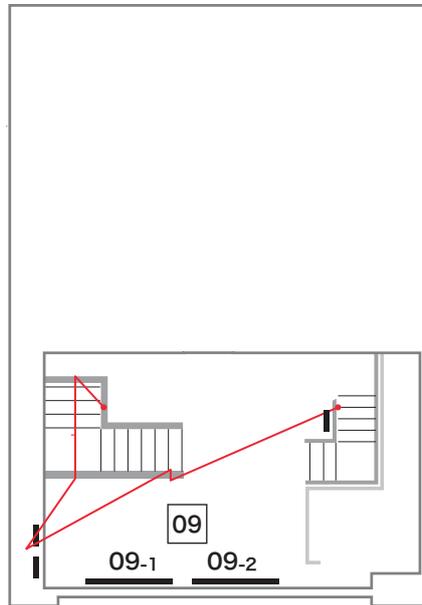
07《 くずれる 白 -edition 3- 》

2015  
キャンバス、シャチハタスタンプインク、アクリル  
ガッシュ、サンビーエンドレススタンプ  
100×100cm

08《 かさねる 白 》

2013  
キャンバス、シャチハタスタンプインク、アクリル  
ガッシュ、サンビーエンドレススタンプ  
200×300cm

3F



09《 escape 》

2013  
パネル、胡粉、合成樹脂塗料、綿棒、リムーバー、ス  
ライドショームービー  
サイズ可変

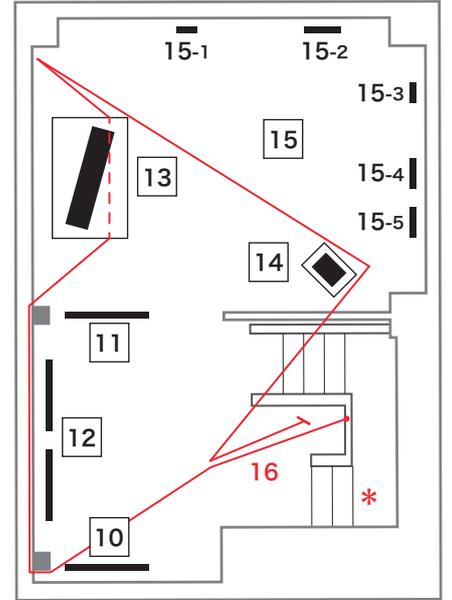
09-1 CMY

2012  
胡粉、合成樹脂塗料、リムーバー、綿棒  
150×150cm

09-2 YMC

2012  
胡粉、合成樹脂塗料、リムーバー、綿棒  
150×150cm

4F



10《 水/water 》

2016  
板ガラス、ルーター  
188×96cm

11《 tongue score 》

2016  
板ガラス、ルーター  
180×96cm

12《 水の発音 》

2016  
板ガラス、ルーター  
180×96cm

13《 よだかの星 / THE NIGHTHAWK STAR 》

2019  
スライドガラス、シルクスクリーン  
サイズ可変  
\*本作品はお手にとっていただけます。

14《 Reversi 》

2020  
オセロ、シルクスクリーン  
サイズ可変  
\*本作品はお手にとっていただけます。

15《 Playing Body 》

2020  
パネル、アクリルガッシュ、ミラーパウダー  
15-1 45.5×16cm  
15-2 24×33cm  
15-3 16×22cm  
15-4 31.5×41cm  
15-5 22×27cm

16《 声の解体 》

2019  
サイズ可変

\* パフォーマンス「躰の延長」記録映像

2020  
映像 3:03  
パフォーマンスゲスト 今村達紀  
会場撮影 守屋友樹  
写真提供 Gallery PARC